

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成26年3月13日(2014.3.13)

【公表番号】特表2013-518311(P2013-518311A)

【公表日】平成25年5月20日(2013.5.20)

【年通号数】公開・登録公報2013-025

【出願番号】特願2012-551227(P2012-551227)

【国際特許分類】

G 0 2 B 6/44 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 6/44 3 8 1

【手続補正書】

【提出日】平成26年1月21日(2014.1.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(a) 不透水性の熱可逆性架橋ポリマーコーティングでコートされた 150 ~ 1200 d t e x の線密度、10 ~ 65 g / d t e x の靱性、150 ~ 2700 g / d t e x の弾性率、および 1 ~ 8 パーセントの破断点伸びを有する第 1 の強化系を、保護コーティングを結合切断によって水膨潤性高吸収性ポリマーに変換するために十分な時間の間 45 ~ 200 の温度にかける工程と、

(b) 工程 (a) からの前記第 1 の強化系の 1 つまたは複数を 1 つまたは複数の光ガラスファイバー伝送媒体と組み合わせる工程と、

(c) 保護スリーブを工程 (b) の少なくとも 1 つのアセンブリの上に適用する工程とを含む、ファイバー光ケーブルアセンブリを形成するための方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の方法によって製造されたファイバー光ケーブル。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

比較例 A と比較したとき、実施例 1 の膨潤度がほとんど 10 倍増加したことは、権利請求された方法の有効性を示す。

以下、本発明の態様を示す。

1. (a) 不透水性の熱可逆性架橋ポリマーコーティングでコートされた 150 ~ 1200 d t e x の線密度、10 ~ 65 g / d t e x の靱性、150 ~ 2700 g / d t e x の弾性率、および 1 ~ 8 パーセントの破断点伸びを有する第 1 の強化系を、保護コーティングを結合切断によって水膨潤性高吸収性ポリマーに変換するために十分な時間の間 45 ~ 200 の温度にかける工程と、

(b) 工程 (a) からの前記第 1 の強化系の 1 つまたは複数を 1 つまたは複数の光ガラスファイバー伝送媒体と組み合わせる工程と、

(c) 保護スリーブを工程 (b) の少なくとも 1 つのアセンブリの上に適用する工程と

を含む、ファイバー光ケーブルアセンブリを形成するための方法。

2．少なくとも1つの第2の強化系が工程（b）において前記第1の強化系およびガラスファイバー伝送媒体と組み合わせられていてもよい、上記1に記載の方法。

3．前記第1の強化系の前記ポリマーが、p - アラミド、ポリベンザゾール、ポリピリダゾールまたはそれらの混合物からなる群から選択される、上記1に記載の方法。

4．前記熱可逆性コーティングの熱可逆性架橋剤が、第1の強化系とコーティングとの総重量に基づいて0．001重量％～0．5重量％の量で存在する、上記1に記載の方法。

5．前記熱可逆性架橋コーティングが、前記第1の強化系とコーティングとの総重量に基づいて0．1重量％～10重量％の量で存在する、上記1に記載の方法。

6．前記p - アラミドがポリ（パラフェニレンテレフタルアミド）である、上記3に記載の方法。

7．上記1に記載の方法によって製造されたファイバー光ケーブル。